



ふるさと栗山で輝くヒトをクローズアップ

きらり☆栗山人

北海道内田鍛工(株) 橋本 昇二郎さん



栗山の場で自己表現を、好奇心が向かう未来

栗山で働くキツカケは生まれ育った北海道への想い

橋本さんは札幌出身。二人兄弟の次男として好奇心旺盛な家族の元で育ちますが、自身はやや内向的な性格でした。

就職活動では両親への依存から脱却したいと東京で就職を目指し活動しますが、活動の中で「都会で働く姿よりも道内の会社で働き、北海道の役に立つ働き方をしたい」という軸が生まれます。結果、北海道内田鍛工(株)とのご縁があり、社会人生活を栗山でスタートします。

「コロナ禍での危機感と栗青協との出会い」

仕事に慣れてきた令和3年。コロナ禍により職場環境が変化し、心の中で危機感が生まれます。仕事やプライベートでもこれまで以上に自主的に動かなければ、という気持ちが芽生えました。これまで栗山にあるコミュニティに参加していなかったため、チャンスとして捉え探していたところ、兄の友人が『栗山町青年団体協議会(以下、栗

青協)』で活動していることを知り、門を叩きました。

栗青協に入会后、橋本さんは積極的に社会活動に参加し、頭角を現します。その活動姿勢が認められ、今年の6月に会長に就任。同世代のメンバーを引っ張るリーダーとなりました。

「兄の存在は特別 好奇心が向かう未来は」

橋本さんにとって兄は特別な存在。何か好きになるキツカケは兄からの誘いが多いと語ります。「ただ、兄と同じ道を歩みたいというわけでもなく、互いに肌に合うものが多かっただけです。逆のケースもありますしね」と、自身の好奇心は年齢とともに、社会活動を通じて主体的な動きへと変容することになります。栗山を「自己表現の場所」として、自分がやりたいことを地域の活動の中で実現していきたい、と話していました。



栗山人の紹介内容はnote「くりやまのおと」に掲載

